

2025 年 8 月 13 日（水） 16:00-17:30 本部棟 201 号室

愛は戦いである：

したがるオスと嫌がるメスの生物学

岡山大学大学院環境自然科学学域 宮竹貴久 教授

1871 年にダーウィンが性選択説を提唱し、同性内選択と異性間選択という 2 つの考え方を示した。前者は、普通、オスがメスをめぐって争う形であり、シカの角やクワガタムシの大顎などの例がある。この考えは、当時、世間にすぐに受け入れられた。一方、普通、メスがオスを選ぶ形となる後者の考え方が世間に受け入れられたのは、性選択の提唱後 111 年を経た 1982 年であり、スウェーデンの鳥学者の実験に依った。1979 年に芽が吹いた性的対立という考え方は、2000 年前後に複数の実証試験が行われた結果、その存在が認識された。今では性的対立も雌雄の共進化による性選択のひとつの形とされている。本セミナーでは、性にまつわる話題について広く知られている事例を簡単に概説するとともに、演者自身、あるいは院生とともにこれまで行ってきた研究事例について紹介する。



ヒゲナガヘリカメムシの闘争



ジャイアントミールワームの闘争

